



1.17 を知ろう！学ぼう！伝えよう！

新しい年が始まりましたが、早々に大変なことが起こりました。石川県付近を震源域とした能登半島地震です。発生から一週間以上が経ちましたが、犠牲になられた方の数はふえるばかり、未だ被害の全容が明らかにはなっていません。翌2日には、被災地へ救援物資を運ぼうとしていた海上保安庁の飛行機が旅客機と衝突炎上し、5名の隊員が亡くなりました。犠牲になられた方々のこと、そしてこの寒空の下、ライフラインが断たれた中で不自由な避難生活を余儀なくされている方々のことを思うと心が痛むばかりです。

私たちの住む街でも、今から29年前に発生した阪神淡路大震災では、多くの人々の大切な命、住まい、そしてあたりまえの日々の暮らしを一瞬のうちに失いました。写真は、尼崎市内の小学校の写真です。地震後、子どもたちは初めての登校で友だちと抱き合っ



互いの無事を喜び合いました。大きな被害を受けた校舎へは立ち入り禁止となり、しばらくは吹きさらしの運動場にブルーシートを敷き、ランドセルを机代わりにして学習しました。いわゆる青空教室です（写真：上左）。その後、仮設校舎を建てるまでの約2か月半、近隣の学校へ分かれて通いました（写真：上右）。今となってはよい思い出と言えるのも、

命あつてのことです。

皆さんの住む街でも、大きな被害がありました。上ノ島町の市尼崎高校の体育館は大きな被害を受けました（写真：下左）。立花町では大規模な火災が発生しました（写真：下右）。



今年の1月17日には、尼崎市の『1・17は忘れない地域防災訓練』が立花北小学校で行われます。この機会に29年前の阪神淡路大震災時の様子を知り、いつかまたやって来るその時に、たった一つの自分の命をどのように守るのか、未来の自分や家族に何を伝えるのか、子どもたちと一緒にしっかり考えていきたいと思ひます。

1月のテーマは『いのち』そして『あたりまえへの感謝』

災害に出会ったとき、「お店でものが買える」「寒ければヒーターを着ける」「蛇口をひねると水が出る」「温かいお風呂に入る」「駅で待っていたら電車が来る」等々、日頃ふつうにやっていることが実はあたりまえではなく、とてもありがたいことであることに気づかされます。その中に『命』があります。毎日、普通に目を覚まし、「おはよう」と家族とあいさつを交わし、朝ごはんを食べて登校し、友だちと学び、遊び、けんかして、家に帰って、温かい布団で眠る…そんなあたりまえの暮らしに感謝して、笑顔で過ごせるようにしたいものです。

三学期は子どもたちにとっては、新しい学年に向けての大事な助走期間です。特に6年生は、小学校最後の三か月間、小学校生活をしっかり締めくくることが、次の中学校に向けてのステップとなります。これまで学校の顔として頑張ってくれた6年生、三学期も下級生たちに素敵な姿をいっぱい見せてほしいと期待しています。